

| | | | | | |
|------|-------|-----------|--------------|--------|-----|
| 講義名 | 金融政策論 | | | 授業形態 | |
| 担当教員 | 羽森 直子 | 開講期・曜日・時間 | 前期集中 日曜日 その他 | | |
| | | 単位数 | 2 | 履修開始年次 | 3年生 |

主題と概要

日本においては、長期にわたってデフレ（継続的な物価下落）が続いていたが、昨年からはインフレ傾向に転じたことから、日本銀行の金融政策のあり方がどう変化するかについて関心が高まっている。では、そもそも金融政策とはどのような手段で実施され、どのような効果が期待されているのだろうか。そして、非伝統的金融政策とはどのようなものだろうか。この講義では、金融政策に関するより深い知識を修得し、どのような課題があるのか、そしてどのような解決策が考えられるのかについて考察することを目的とする。

具体的には、日本の中央銀行である日本銀行の役割、組織、歴史、同行の金融政策の特徴と仕組み、非伝統的金融政策と呼ばれる実際の金融政策運営、さらに欧米主要中央銀行の金融政策等を取り上げる。

到達目標

(1) 近年、主要な経済政策として重要性が増している金融政策を実施している中央銀行の役割について理解し、望ましい中央銀行の在り方についても考察できるようになる。
(2) 金融政策の目標、手段、運営方法、効果について基本的な仕組みを理解できるようになる。
(3) 日本銀行を中心とする主要国の非伝統的金融緩和と政策の内容、目的、効果について分析を行い、理解できるようになる。
(4) (1)から(3)の学びにより、現代社会ではどのようなマクロ経済上の問題が存在しているのか、またその解決のために中央銀行はどのような金融政策を実施すべきなのか、ということについて自分自身の意見を持つことができるようになる。

提出課題

数回、宿題レポートを提出していただく予定。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業中に、宿題レポートと小テストの講評と解説を行う。

評価の基準

ほぼ毎回実施する小テストにより評価を行う予定であるが、別途中間レポートの提出を求める可能性がある。

履修にあたっての注意・助言他

金融政策論は金融論の応用分野なので、本講義の内容を深く理解するためには「マクロ経済学」および「金融論」を履修していることが望ましい。

毎回の講義に出席することが重要だが、特に初回（4月12日）は講義概要について説明するので、必ず出席すること。

授業の最初に小テストを実施するので、遅刻しないようにしていただきたい。講義中は私語を慎み、他の受講生の迷惑にならないように心がけよう。

教科書

.使用しません。

参考図書

.日銀日記－五年間のデフレとの闘い。 岩田規久男 筑摩書房 9784480864598

その他

授業中に適時資料を配布する。

授業計画

1. 金融政策論とは何か
2. 中央銀行の役割と金融政策の仕組み
3. 日本銀行：歴史、日銀法の改正
4. 日本銀行：組織、独立性と責任説明
5. 日本銀行の金融政策の特徴：政策手段
6. 日本銀行の金融政策の特徴：最終目標、波及経路
7. 日本銀行の金融政策運営：ゼロ金利政策
8. 日本銀行の金融政策運営：量的緩和政策
9. 日本銀行の金融政策運営：包括緩和政策
10. 日本銀行の金融政策運営：質的緩和政策
11. 日本銀行の金融政策運営：マイナス金利付き量的・質的緩和政策
12. 日本銀行の金融政策運営：非伝統的金融政策のまとめ
13. 主要国の非伝統的金融政策
14. 欧州中央銀行：特徴、歴史、組織
15. 欧州中央銀行の金融政策運営
16. 米連邦準備制度

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | |
|--------------------------------------|--|
| ア：PBL（課題解決型学習） | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ○ ウ：ディスカッション、ディベート | エ：グループワーク |
| オ：プレゼンテーション | カ：実習、フィールドワーク |
| キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回実施される小テストの試験対策として、各回配布される資料を復習して、しっかり理解しておくこと。（3時間×15回=45時間）
また、数回宿題レポートの提出を求めるので、その作成のための調査、まとめ等を行うこと。（15時間）
（合計60時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標（1）～（4）を達成することにより、経済学部経済学科ディプロマ・ポリシー（DP）に貢献することができる。具体的には、以下の通りである。

これらでの学問的基礎の基盤を身に付け、現代社会の問題の一つである金融政策に関する諸問題について幅広い観点から考察し、課題を提案することができるようになる。

世の中の動きを理解して、経済問題を中心にした現代社会の諸問題の一つである金融政策に関する諸問題に解決策を提案することができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

.本講義はユニティ特別提供科目のため、ユニティで開講される。
.授業に関する質問をメールで行う場合、必ず大学から配布されたアドレスから送信すること。